



豪雪対策、コメ対策でも質問 6月議会、一般質問続報

6月議会一般質問の続報です。(株)杜氏の郷問題のほか、豪雪対策、コメ対策でも中川市長に質問しています。以下はその大要です。

【橋爪】災害救助法適用下における救助費の可否をめぐる、国が細部にわたる監査を実施するなどの動きがあったが、その後について聞きたい。

【市長】国からは、現場の写真が添付されていないことや、住宅側面等の除雪の必要性について確認を求められたため、本年1月に対象世帯に近接する観測地点の積雪量データや、住宅側面の除雪の必要性を説明する資料を県を通じて国に提出した。

救助費の可否に係る進捗状況については、現在、新潟県が国と継続的に協議を行っているものと承知している。

【橋爪】救助費の対象については、関係市町村、県と共に国に対して「豪雪地の現実を踏まえた対応」を求めるべきだと思うが、市長の考えを聞きたい。また、災害救助法の適用の判断は県であり、国の判断で左右されてはならない。2020年度までの対応を基本に頑張るよう新潟県に働きかけるべきだと思うが、市長の考えを聞きたい。

【市長】国では、「災害救助事務取扱要領」の次回の改定において、雪害に関する追加の「事例」を示す予定であると

聞きしている。市としては、本年4月に行われた「令和3年度の豪雪に係る新潟県災害救助条例による災害救助費県負担金の完了検査」の場において、新潟県防災局の担当者と意見交換を行う中で、豪雪地の実態を十分に考慮した柔軟な救助を受けられるよう、市の考えを直接お伝えしたところであり、今後も県と協議しながら情報を収集し、また、必要に応じて市長会などの機会を捉えて、国や県に働きかけていく。

【橋爪】上越市の米生産は危機を迎えている。米価暴落対策、肥料高騰対策、水田活用の直接支払交付金の見直し、農業者戸別所得補償制度の復活を求めて政府に働き掛けを行うべきだと思うが、市長の見解を聞きたい。

【市長】米価下落対策については、まずは需要に応じた米生産が行われることが重要ですので、大豆、飼料用米、輸出用米など需要がある作物への転換を支援する水田活用直接支払交付金制度の維持・拡充を引き続き国に対して要望していく予定だ。

また、肥料高騰への対策については、現在、国において農業者の負担軽減を

る仕組みづくりの検討が始まっているので、その動向を注視していく。

次に、経営所得安定対策における水田活用直接支払交付金の見直しについては、令和4年から8年までの5年間に一度も水を張らない水田は交付金の対象としない方針が示された。当市においては、水田土壌が重粘土質で排水性が低いため、畑作物のブロックローテーションは湿害を受けやすいほ場があることや、中山間地域では、平野部に比べて生産コストがかかるため、交付金の減少によっては営農を継続していくことが困難になることが想定されることから、地域の実態を国に示しながら、現場の課題に適應した制度となるよう求めてまいりたいと考えている。なお、農業者の所得を補償する制度については、ら、現段階において国に対して新たな仕組みづくりを要望する考えは持ち合わせていない。



【トリアシショウマ】(再掲)ユキノシタ科の多年草。漢字で「鳥足升麻」と書きます。若芽は山菜として食べられます。花期は7月～8月、白い、ふわっとした花姿は個性的です。草丈は40㍍～100㍍ほどです。花言葉は「可憐な心」です。写真は6月23日、吉川区小苗代地内にて撮影しました。

水彩画グループが作品展

6月26日、市民プラザで開催されていた水彩画のサークルの皆さんの作品展を鑑賞してきました。

私も最近、水彩画っぽいものを描き始めていますので、花や風景などの色の塗り方、使い方に注目して観てきました。やはり、日ごろから描いている人の絵は違いますね。ほれほれしました。手前の2作品は笹崎つや子さん作です。



はしづめ法一の活動レポート

No.2068 2022.7.10

発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず
Tel 025-548-3628

通じないときは 090-5392-1961

E-mail hasiznyg_0808@yahoo.co.jp

URL <http://www.hose1.jp/>



ブログ「ホーセの見たある記」は ← こちら

橋爪法一

検索

春よ来い

第七一五回 不死鳥のように

六月三日だったと思います。直江津の三八市へ行った際、漬物を中心に販売していたYさんのことが気になって、山川製菓店のお母さん、Hさんに尋ねました。

「Yさん、ずっと来ていないなんねみただいだけど、どうしたのね」

すると、Hさんはこう言われたのです。

「あの人は心配いらんわね。病気がよすがケガしように不死鳥のように立ち上がんなさるすけ」

言われた通りでした。Yさんは、その後、一〇日ほど経って、再び市に出てこられたのです。

Yさんに聞いたら、階段から落ちて入院し、自宅療養も含め五十日ほど休んだとのことでした。

私は直江津の三八市に通い始めて八年になりますが、先日、Yさんに、「いつから市に店を出すようになったがね」と訊(き)きました。すると、「二五歳で結婚し、じきに市へ通うようになったんだわね」。びっくりしましたね。ということは、五十年以上も前から朝市に野菜や漬物などを出してきたという事です。

きっかけは政府の減反政策だったとのことでした。「コメつくらんねくなりや、どうしよう」と最初は枝豆を作って三年ほど頑張ったけどうまくいかず、その後、自分の畑で作った野菜などを高田の市へ売りに出したのだそうです。当時は車がありませんでした。それでどうしたか。自宅から朝市のところまで片道約六km、リヤカーに野菜を積んで市まで運んだというのです。すごいですね。

そう言えば、私が高校時代、南城町や南本町などに住んでいた時、農家のお母さんたちがリヤカーを引いて、野菜売りをされているところを何度か見たことがあります。Yさんが高田の市に野菜などを出された時期は、その数年後になります。当時、

リヤカーは大事な運送手段の一つだったんですね。

車に乗るようになってからYさんは、車の置く場所を確保しやすい直江津の三八市へ変更しました。そのころ、Yさんは保健所の許可を取って漬物や惣菜も朝市に出すようになっていました。

三八市では、Yさんは、美味しい漬物やおかき売っている一人として有名ですが、長年続けてきた、その頑張りの土台は子どもの時に形成されたようです。父親がじつにきびしい人だったとか。そして、小学校の五年生の時でした。お母さんが四〇歳で倒れられ、お母さんがされていた仕事を三人のキョウダイで頑張ってたのだそうです。そのことが大きく影響しているのでしょうか。

朝市では、大勢のなじみのお客さんがいます。Yさんは、「お客さんと触れ合う時間が一番楽しい。『おばちゃん、待ってたいよ』、『おいしかったよ』と言われるとうれしくなる」。これまで、こういうお客さんに後押しされたから長続きしてきた。感謝しかないわね」と言っていて笑います。

最近午前十時頃になると、近くで野菜などを売っている人たちと山川製菓店前でお茶飲みをするようになりました。これがまた楽しいんです。家族のこと、野菜のことなどおしゃべりがはずみます。私も二度ほど仲間にしてもらいましたが、Yさんはお茶飲み用にナスの漬物を用意していて、みんなに食べてもらっています。

Yさんは、「再来年の二月には運転免許証の更新がある、来年の十月ころには運転してもいいかどうかを判断する検査もある。家族は心配しているが、朝市の楽しみは忘れられそうもない」と言っておられました。「人生、楽しく生きなきゃ」というYさんはいま、八〇代の一番いいところ、まだまだ元気です。

自宅裏の池にモリアオガエルの卵



大島区三竹沢の石塚さん宅の裏の小さな池にモリアオガエルが卵を生み付けました。

正確にいうと、池の壁やコオホネの葉に白い卵がくっついていました。

森の中の木などについたモリアオガエルの卵は見たことがありますが、民家のそばは初めて見ました。この先が楽しみです。

朝市風景

7月3日の三八市の様子です。暑い中、大勢の皆さんが買い物を楽しんでおられました。軽トラの農場名は私が書き入れました。



ニュースフラッシュ

上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	6月29日(水)	7月5日(火)
上越南消防署	0.053	0.050
上越北消防署	0.047	0.040
新井消防署	0.057	0.053
頸北消防署	0.050	0.057
頸南消防署	0.057	0.060
東頸消防署	0.043	0.047
名立分遣所	0.060	0.057
高士分遣所	0.047	0.050